

～木更津で漁業被害を及ぼしているウミグモ～
カイヤドリウミグモの東京湾盤洲干潟における
二枚貝類への寄生状況についての報告

平成 19 年 10 月 9 日

小櫃川河口に位置する盤洲干潟(千葉県木更津市)において、アサリなどの二枚貝に寄生し、漁業被害を及ぼしているカイヤドリウミグモ *Nymphonella tapetis* Oshima, 1927 について、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター所属の多留聖典氏、中山聖子氏、高崎隆志氏、駒井智幸氏が、現状調査を行い、(財)水産無脊椎動物研究所発行の「うみうし通信」9月号に報告しました。また、10月13～14日、東京海洋大学で行われる第45回日本甲殻類学会において報告されます。



カイヤドリウミグモはアサリなどの二枚貝に寄生することが知られています。しかし、日本国内での出現記録は非常に少なく、本種の生態に関する知見はほとんどありません。

今年4月に千葉県の小櫃川河口に位置する盤洲干潟において、アサリおよびマテガイから本種の寄生が伝えられ、その後、両種とも大量斃死が確認されました。そのため、現地の2漁業組合は6月後半よりアサリの出荷を停止しました。(現地の2漁業組合のHPによると、現在、養貝場内で生産できる貝については従来通り鮮度維持が保てることが確認できたため、養貝場での生産を行い、出荷を再開しています。)

そこで、東邦大学理学部東京湾生態系研究センターでは本種の貝類への寄生状況を把握し、本種の生態的特性を検討するため、7月14日に調査を行いました。本調査では、アサリ、マテガイおよびシオフキが寄生を受けていることが確認されました。マテガイおよびシオフキについては過去に寄生の記録はなく、両種ともに今回の発生で新たに記録された寄主と考えられます。

アサリ(n=434)について、寄生率を見ても55.5%で、特に殻長25mm以上の大型個体においては90.3%と、ほとんどの個体が寄生を受けていました。また、1個体の貝への寄生数は、1～60個体ほどであり、今までの報告の1～10個体を大きく上回っていました。

本種は二枚貝の体液を主食としているため、多数のウミグモの寄生による寄主へのストレスは相当高いと推測されます。また、アサリにおいて、本種は水管直前から唇弁、鰓(えら)に至る外套腔に寄生していることから、体内での水流を阻害し、呼吸効率および採餌効率の低下を引き起こす可能性があります。これらのことから、寄主が多数のウミグモの寄生を受けることで衰弱し、斃死に至る危険性は高く、本種はいわゆる侵略的寄生者である可能性が強く示唆されました。

本種はどのように大量出現したのか、詳細は分かっていませんが、低温下で飼育しても長く生残していることから、温暖化により分布域を拡げていることは考えられにくいと示唆されました。

東邦大学理学部東京湾生態系研究センターでは、今回のカイヤドリウミグモの出現による被害の拡大防止および回復をするべく、本種の動向を継続的に調査・検討していきます。

(文/森上需:東邦大学理学部東京湾生態系研究センター)

【お問い合わせ先】

東邦大学 理学部

東京湾生態系研究センター 森上 需

TEL・FAX:(047)472-1159